

「論理・表現Ⅱ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立阿久比高等学校
教諭 田中 恵美

1 日時・実施場所

〈省略〉

2 学 級

〈省略〉

3 学級観

〈省略〉

4 教 材

〈省略〉

5 単元の目標

- (1) 自分が好きな本のジャンルや最も印象に残っている本について、適切な比較表現を用いて詳細や感想などを述べることができる。
- (2) 紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、自分の考えをまとめ、伝え合うことができる。

6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

話すこと [やり取り]	身近なことで社会性のある事柄に関してClassroom Englishを使い、発問に対して複数の文で答えることができる。
話すこと [発表]	身近なことで社会性のある事柄に関して ア 既習の表現を使い、30語以上で話すことができる。 イ 聴衆を意識して話すことができる。 ウ 即興で意見を述べ、補足の説明ができる。
書くこと	身近なことで社会性のある既習の事柄に関して ア 学習した表現を使うことができる。 イ 時間をかければ、段落構成について考えながら40語以上の文章を書くことができる。 ウ 文のつながりを意識しながら、与えられた時間内に30語以上の文章を書くことができる。

7 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	/	紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、自分の考えをまとめ、伝え合っている。	紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、相手と積極的にやり取りしようとしている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・比較級、最上級の用法や意味を理解している。 ・自分の意見や主張について、論理の構成や展開を工夫して書く技能を身に付けている。 	自分が好きな本のジャンルや最も印象に残っている本について、内容や感想を詳しく書いて伝えている。	/

8 パフォーマンステスト

○領域

話すこと [やり取り]

○内容

紙の本と電子書籍のどちら好きかについて、自分の意見を理由とともに伝えたり、相手に質問したりして、やり取りをする。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a		自分の意見を理由とともに論理的かつ詳しく伝えている。また、相手の質問に適切に応じている。	ノンバーバルスキルを使って、積極的に相手とやり取りを継続させようとする姿勢が十分見られる。
b		自分の意見を理由とともに伝えている。また、相手の質問に応じている。	相手とやり取りをしようとする姿勢が見られる。
c		「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの： a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの： b

「努力を要する」状況と判断されるもの： c

9 単元の指導計画 ※網掛けは記録に残す評価の場面。

(聞…聞くこと、読…読むこと、や…話すこと [やり取り]、発…話すこと [発表]、書…書くこと)

時	ねらい (■)、言語活動等 (丸数字)	内容のまとめ					生徒の活動状況を見届ける観点 (【 】)・方法 (○)
		聞	読	や	発	書	
1 2	<p>■自分が好きな本のジャンルや最も印象に残っている本について、適切な比較表現を用いて詳細や感想などを述べる。</p> <p>■パフォーマンステスト要項(資料1)を示すことで達成したいねらいを可視化する。</p> <p>①テーマに関する英語の質問に答える。</p> <p>②Task1 ではモデル会話についての質問に答えて内容を整理する。</p> <p>③語句や文法(比較)について確認する。</p> <p>④Task2 では確認した語句や表現、会話の流れを参考に、自分が好きな本のジャンルや最も印象に残っている本について知っていることや調べたことの概要や要点、また自分の考えを伝え合う。</p> <p>⑤Goal1 ではTask2の内容をもとに、分かりやすい文章にまとめ、発表する。(グループ)</p> <p>⑥振り返りシート(資料2)に身に付けたい力や達成したい目標等を記入する。</p>				○ ○ ○	○ ○	<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】自分の意見を適切な理由とともに伝えているか。</p> <p>【主】意欲的に自分の意見を伝えようとしているか。</p> <p>○活用ノート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>
3	<p>■紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、自分の考えをまとめる。</p> <p>①テーマに関する英語の質問に答える。</p> <p>②Task1 ではモデル文の内容や構成について確</p>				○		<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】自分の意見を適切な理由とともに伝えているか。</p>

	<p>認する。</p> <p>③意見を述べるために必要な文法(比較)について確認する。</p> <p>④Task2 では紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて見たり聞いたりして知っていることの概要や要点、また自分の考えを書く。</p> <p>⑤Goal1 では確認した語句や表現、文章の構成を参考に④の内容を用いて、一つのパラグラフの英文を書く。</p>					<p>○ 【主】意欲的に自分の意見を伝えようとしているか。</p> <p>○活用ノート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>
4	<p>■比較表現 (like~better than、 more and more) の用法を理解する。</p>					<p>○ 【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p>
5 6	<p>パフォーマンステスト 振り返り (資料2)</p>			思 主		<p>※採点の基準等は「8 パフォーマンステスト」を参照。</p>
後 日	<p>定期考査</p>					<p>知 思</p>
7	<p>パフォーマンステストの振り返り後に実施するフィードバック (資料3)</p>					<p>【主】意欲的に振り返りを生かそうとしているか。</p>

「論理・表現Ⅱ」 3期パフォーマンステスト実施要項

September, 2023

- 1 日時 令和5年9月25日（月）～29日（金）の「論理・表現Ⅱ」の時間
- 2 領域 話すこと [やり取り]
- 3 場面設定 スマートフォンやタブレットが私たちの暮らしに必要不可欠となった今、電子書籍の普及も進んでいる。ペアをつくり、紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、自分の意見を理由とともに伝えたり質問したりして、やり取りをしよう。
- 4 実施方法 二人一組で実施する。ペアは当日決定する。
制限時間は2分間。2分の間で意見交換をする。
- 5 注意点 二人の意見が言えるよう注意する。
待っている時間はワークブック等に取り組む。
テスト前に各自目標設定をし、振り返りシートに記入する。
テスト後は振り返りをし、今後の学習につなげる。
やり取りは英語で行うこと（書名や著者などの固有名詞は日本語でかまわない）。

6 採点基準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	自分の意見を理由とともに論理的かつ詳しく伝えている。また、相手の質問に適切に応じている。	ノンバーバルスキルを使って、積極的に相手とやり取りを継続させようとする姿勢が十分見られる。
b	自分の意見を理由とともに伝えている。また、相手の質問に応じている。	相手とやり取りをしようとする姿勢が見られる。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

「論理・表現Ⅱ」 振り返りシート

Lesson Goal (パフォーマンステスト):

ペアと、紙の本と電子書籍のどちらが好きかについて、自分の意見を理由とともに伝えたり質問したりして、やり取りをする。(2分間!)

授業の中で意識すること

- ◎やり取りを続けるために：あいづち、オウム返し、ジェスチャー、アイコンタクト
- ◎自分の意見を伝えるために：比較級、理由の述べ方、十分な語彙

パフォーマンステスト実施前に記入

- ・自分の目標設定

- ・目標を達成させるためにどんな力を身に付けたいか

パフォーマンステスト実施後に記入 (4 3 2 1)

	項目	評価			
1	比較級を正しく使えたか。	4	3	2	1
2	聞き手に分かりやすいイントネーションで話せたか。	4	3	2	1
3	自分の意見を理由とともに詳しく伝えられたか。	4	3	2	1
4	あいづちやオウム返し、ジェスチャーやアイコンタクトを効果的に使用できたか。	4	3	2	1

特に努力した点、これはできた！と感じる点

うまくいかなかったことと、次回に向けての改善点

Class _____ No. _____ Name _____

「論理・表現Ⅱ」 パフォーマンステスト実施後フィードバック

Topic: Which do you like better, e-books or paper books?

1 振り返りシートから見えてくる「できた」「できなかった」

(1) できた点

- ・自然な身振り手振り
- ・アイコンタクト
- ・笑顔で会話
- ・用意した意見

・日頃ペアワークに熱心に取り組んでいる証拠！努力の賜物★
・きちんと準備してテストに臨めましたね。

(2) できなかった点

- ・オウム返し
- ・即興性
- ・相手が困っている時の助け舟
- ・正しい表現での会話（比較級）

・オウム返しには相手の言うことを聞く力が必要。内容はもちろん、相手がどんな動詞を用いているかにも気を配る必要あり。
・確かに！相手に助け舟を出すことができれば、会話は自然と続いていくね！
・目立ったミスには共通点が！みんなでシェアしよう。

2 これからもっと成長するために

(1) ペアとのやり取りを続けるために

- ・オウム返しやジェスチャーは今後も練習！
1回の練習で足りなければ2回、3回と繰り返しやっていくうちに慣れてくる
- ・相手が困っている時には…
→質問を変えてみる。

例 How often do you read books? を相手が理解できなかった場合

(2) 自分の意見を伝えるために 《今回目立ったミスをみんなで共有》

① I like e-books more better.

② What do you like book?

実践報告

「学びに向かう力」の育成 —生徒一人一人の目標設定と達成に向けて—

1 研究の目的

新学習指導要領に基づく授業を実施するに当たり、本校では主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、1年次より授業の中でペアでのやり取りを積極的に取り入れてきた。しかし、これまで実践したパフォーマンステストではその主体性を適切に測り評価につなげるまでには至っていなかった。今回の研究を通して、4技能5領域のうち、主に「話すこと [やり取り]」における生徒のコミュニケーション能力の育成及び「学びに向かう力」の育成を目指したいと考え、本テーマを設定した。

2 研究の方法

コミュニケーション能力及び「学びに向かう力」の育成のために、「論理・表現Ⅱ」の授業において以下の4段階を設定した。

(1) 単元構想とパフォーマンステストの計画

単元構想を練る際、生徒に身に付けさせたい力を念頭に置き、パフォーマンステストの実施方法や実施までの指導計画を立て、実施要項を作成した（資料1）。今回は「紙書籍と電子書籍のどちらが好きか」について、自分の意見を理由とともに伝えたり、相手に質問したりして2分間やり取りを続けるパフォーマンステストを計画した。

(2) 授業実践（単元目標の提示と個人の目標設定）

授業の冒頭で単元の目標を提示し、クラス全体で達成したい目標を共有した。その後、単元の目標を基に生徒一人一人が達成したい目標を自身で設定した（資料2）。授業を行う際は、生徒が目標を達成するために必要な知識を学び取り、繰り返し練習する場面を工夫した。また、授業の最後には自身の達成状況を各自あるいはペアで確認する時間を設けることもあった。

(3) パフォーマンステストの実施

実施要項に沿ってパフォーマンステストを実施した。即興性の観点から、ペア及び順番は当日くじにより決定した。

(4) テスト実施後の振り返り

パフォーマンステスト実施後に各自で振り返りを行い、それを振り返りシートに記入する時間を設定した（資料3）。努力した点や次回に向けての改善点を考えることで学びの調整を図る場面を大切にした。

3 考察

実践を踏まえ、生徒一人一人の目標設定と「学びに向かう力」の育成の関係性について以下の3点で考察したい。

(1) 生徒自身による目標設定

新しい単元の導入活動として、振り返りシートを配付し、生徒自らが達成したい目標について記述することを促した。主な生徒の記述内容は以下のとおりであった。（一部抜粋）

- ・オウム返しに挑戦したい
- ・アイコンタクトをしっかりしたい
- ・自分から話を広げたい
- ・相手の話をしっかり聞きたい

このように、論理性よりも相手とのやり取りの継続性に重点を置く生徒が多かった。特に、新たな目標として紹介したオウム返しについては、ほとんどの生徒が達成したい目標として掲げており、新しいことに挑戦したいという前向きな気持ちがうかがえた。

(2) パフォーマンステストまでの授業実践

今回は主に二つの観点で相手とのやり取りにおけるコミュニケーション能力の評価を行った。

ア 自分の意見や考えを論理的に伝える（「思考・判断・表現」）

相手に自分の意見や考えを正しく、分かりやすく伝えるためには正確な表現力が必要となる。そこで、“I like A better than B.”や“more and more books”といった比較表現の定着を図るために、ペアでの練習や家庭での問題演習の時間を確保した。また、AREA (Assertion-Reason-Example-Assertion) 手法を用いて自分の意見を伝える練習もライティング活動やスピーキング活動を通して行った。授業の最後にはノート提出や簡単なクイズを行い、学習内容が定着しているかどうかを確認した。

比較表現については重要文法項目だったこともあり、生徒たちは粘り強く問題に取り組んでいた。一方、AREA を用いて論理的に考えを伝える活動については、意識をしてもやり取りの中で取り入れることは難しく、苦戦していた。論理性という観点においては、やり取りの場面よりもライティング活動や発表の場面の方がより高い目的意識をもって取り組めるのではないかと感じた。

イ 相手とのやり取りを続ける（「主体的に学習に取り組む態度」）

相手とのやり取りにおいて欠かせないのは意見を述べる力だけではなく、相手の意見を聞く力でもある。1年次よりあいづちやアイコンタクトについては継続的に指導してきたが、今回新たに相手の用いる英文を繰り返す「オウム返し」を紹介した。このオウム返しを自身の目標と設定する生徒が多くいたため、パフォーマンステストまでの授業で毎回練習を行い、定着を図った。

目標を設定したことで、生徒はふだん以上に熱心にペアワークに取り組んでいた。また、うまく言えない時には手を挙げ、授業者に質問する生徒もいた。相手とできるだけ自然にやり取りを続けたいという意欲に寄り添う指導の有用性を感じた。

(3) 生徒による振り返りと授業者によるテスト後のフィードバック

パフォーマンステスト後に、単元目標や生徒一人一人が設定した目標を達成できたかどうかについて、振り返りを実施した。主な生徒の記述内容は以下のとおりであった。（一部抜粋）

（努力した点、できた点）

- ・自然な身振り手振りができた
- ・相手の目を見て話すことができた
- ・日本語に頼らずに会話を続けることができた
- ・会話を楽しめた

（できなかった点、改善点）

- ・正しい表現で質問できなかった
- ・相手の質問がよく分からなかった
- ・相手が発言に困っているようだったが、助け舟の出し方が分からず黙ってしまった
- ・次のテストに向けて、他の表現方法を学びたい

振り返りシートの記述より評価の対象となる二つの観点のうち、「相手とのやり取りを続ける」点においてはほとんどの生徒が努力し、達成感を得ていた。一方、もう一つの観点である「自分の意見や考えを論理的に伝える」点においてはうまくできなかったと感じ、次回に向けての改善点だと認識している生

徒が多かった。なお、このことはパフォーマンステストの評価ともおおむね一致していた。

今回の結果を受け、生徒自らが今後の課題と感じている「正確性」については、テスト返却時に復習の時間を設定しフィードバックを行った（資料3）。複数の生徒に共通した誤表現をクラス全体で共有し、修正することで「次はできるように努力しよう」という意欲が生まれたようだ。

4 今後の課題

今回の実践により、単元目標の共有とそれに基づく生徒一人一人が目標設定を行うことで、「学びに向かう力」の育成につながることが分かった。また、目標達成に向けて取り組んだことがどのような結果につながるのかをパフォーマンステストで確認して、振り返りを行うことで、自己の学習を調整し、最適化する側面を高めることができると感じた。

今後は「目標設定→達成に向けてのプロセスの確認→学習→パフォーマンステスト・定期考査→実施後の振り返り→次の目標設定」という学びのサイクルを確立する手だてを模索し、生徒の学びが継続できるよう指導改善を図っていきたい。

5 参考文献

- ・ *EARTHRISE English Logic and Expression II*. 数研出版. 2022
- ・ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校外国語）』. 国立教育政策研究所. 2021
- ・ 河野周. 『中学・高校英語ディベート入門』. 三省堂. 2021
- ・ サラ・マーサー、ゾルタン・ドルニエイ. 鈴木章能、和田玲訳. 『外国語学習者エンゲージメント 主体的学びを引き出す英語授業』. アルク出版. 2022